

イエス、洗礼を受ける

ルカによる福音 3:15-16、21-22

（そのとき、）民衆はメシアを待ち望んでいて、ヨハネについて、もしかしたら彼がメシアではないかと、皆心の中で考えていた。そこで、ヨハネは皆に向かって言った。「わたしはあなたたちに水で洗礼を授けるが、わたしよりも優れた方が来られる。わたしは、その方の履物のひもを解く値打ちもない。その方は、聖霊と火であなたたちに洗礼をお授けになる。」

民衆が皆洗礼を受け、イエスも洗礼を受けて祈っておられると、天が開け、聖霊が鳩のように目に見える姿でイエスの上に降って来た。すると、「あなたはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」という声が、天から聞こえた。

説教

ある牧師に「君はいままで何人の人を救ったのか」と質問されたことがあります。一人もない、と答えました。みなさんのよろこびをいっしょに喜んだり、悲しみを共に悲しんだりすることは心がけていますが、救ったことはありません。それは神の領分です。牧師の質問の意図は何人を教会に導いたか、何人に洗礼を授けたかということを知りたいようですが、わたしはそんなことを問題にする牧師を疑問におもいます。キリスト教は洗礼を入信儀礼とすることを見直す、もっといえば廃止を考える時期にきています。

ヨハネは自分のおこなう洗礼の限界を自覚しているようで、わたしの水の洗礼より聖霊と火の洗礼をお授けになる優れた方がいらっしゃる、とっています。きょうの朗読ではサラッとイエスがヨハネから洗礼を受けたように書いてありますが、マタイ福音書ではイエスとヨハネのやり取りが記録されています。

そのとき、イエスが、ガリラヤからヨルダン川のヨハネのところへ来られた。彼から洗礼を受けるためである。ところが、ヨハネは、それを思いとどまらせようとして言った。「わたしこそ、あなたから洗礼を受けるべきなのに、あなたが、わたし

のところへ来られたのですか。」しかし、イエスはお答えになった。「今は、止めないでほしい。正しいことをすべて行うのは、我々にふさわしいことです。」そこで、ヨハネはイエスの言われるとおりにした。マタイ 3:13-15

ヨハネはイエスに洗礼をおこなうんで滅相もないことだと思います、イエスはまあまあいいじゃないですか、という感じでヨハネの拒絶を押し切って洗礼を受けました。どうしてイエスが洗礼を受けたかったのかはいろいろ解釈がありますが、わたしは神が人となってこの世に来たということを水の洗礼をとおしてハッキリさせるためだったと考えています。

福音書では洗礼に関する記述はこのあとはヨハネ福音書にちょこっと書いてある程度で触れていません。

五旬祭の日が来て、一同が一つになって集まっていると、突然、激しい風が吹いて来るような音が天から聞こえ、彼らが座っていた家中に響いた。そして、炎のような舌が分かれ分かれに現れ、一人一人の上にとどまった。使徒言行録 2:1-3

使徒言行録にはこのようにヨハネの預言した「聖霊と火」による洗礼の様子が記述されていますが、これも一回限りのことです。主が洗礼を受ける、受けた、で洗礼はもうおしまい、でいいじゃないですか。

イエスの教えを広めていく過程で洗礼を利用したことはあったでしょうが、洗礼はイエスの教えの本質ではありません。神を信じるか信じないのか、宗教の本質はここにあります。わたしたちが神を深く知り、まどわされず、揺るぐことなく、神を信じることができますように。
